

令和4年度

鍼灸スポーツ科学科

3年

シラバス

学校法人 健生学園
東日本医療専門学校

授業科目名	保健体育			授業形態	講義	教員	高橋孝義・中尾淳子		No.	36																														
科目区分	専門基礎分野	単位	4	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	3年生																															
授業概要	運動によって健康を保持増進させ、トレーニング機器や自分の身体を使い、身体の仕組みや動きを色々な運動を通じて体験学習する。様々なストレッチ体操を体験し、基礎を習得する。																																							
授業の到達目標	様々なストレッチ体操を体験し、習得する。 正しいトレーニングを覚え、正しいトレーニング機器の使い方を体験する トレーニングの一連の流れを計画、指導実践できるようにする。																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%;">第1週目 オリエンテーション</td> <td style="width:50%;">第16週目 オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>第2週目 ストレッチ1</td> <td>第17週目 実習:介護予防運動 1(ストレッチ・アイスプレイ)</td> </tr> <tr> <td>第3週目 ストレッチ2</td> <td>第18週目 実習:介護予防運動 2(リズム体操)</td> </tr> <tr> <td>第4週目 ストレッチ3</td> <td>第19週目 実習:介護予防運動 3(リズム体操)</td> </tr> <tr> <td>第5週目 ストレッチ4</td> <td>第20週目 実習:介護予防運動 4(筋カトレーニング)</td> </tr> <tr> <td>第6週目 ストレッチ5</td> <td>第21週目 実習:介護予防運動 5(リード)</td> </tr> <tr> <td>第7週目 パーソナルトレーニング1</td> <td>第22週目 実習:介護予防運動 6(リード)</td> </tr> <tr> <td>第8週目 パーソナルトレーニング2</td> <td>第23週目 実技試験</td> </tr> <tr> <td>第9週目 パーソナルトレーニング3</td> <td>第24週目 講義:スポーツスキルの制御と評価 1</td> </tr> <tr> <td>第10週目 パーソナルトレーニング4</td> <td>第25週目 講義:スポーツスキルの制御と評価 2</td> </tr> <tr> <td>第11週目 トレーニング機器1</td> <td>第26週目 講義:スポーツの動機づけ 1</td> </tr> <tr> <td>第12週目 トレーニング機器1</td> <td>第27週目 講義:スポーツの動機づけ 2</td> </tr> <tr> <td>第13週目 トレーニング機器1</td> <td>第28週目 講義:スポーツにおける「あがり」</td> </tr> <tr> <td>第14週目 トレーニング計画作成</td> <td>第29週目 後期試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 まとめ</td> <td>第30週目 解答、まとめ</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について) 柔道場及びトレーニング室を使う</p>										第1週目 オリエンテーション	第16週目 オリエンテーション	第2週目 ストレッチ1	第17週目 実習:介護予防運動 1(ストレッチ・アイスプレイ)	第3週目 ストレッチ2	第18週目 実習:介護予防運動 2(リズム体操)	第4週目 ストレッチ3	第19週目 実習:介護予防運動 3(リズム体操)	第5週目 ストレッチ4	第20週目 実習:介護予防運動 4(筋カトレーニング)	第6週目 ストレッチ5	第21週目 実習:介護予防運動 5(リード)	第7週目 パーソナルトレーニング1	第22週目 実習:介護予防運動 6(リード)	第8週目 パーソナルトレーニング2	第23週目 実技試験	第9週目 パーソナルトレーニング3	第24週目 講義:スポーツスキルの制御と評価 1	第10週目 パーソナルトレーニング4	第25週目 講義:スポーツスキルの制御と評価 2	第11週目 トレーニング機器1	第26週目 講義:スポーツの動機づけ 1	第12週目 トレーニング機器1	第27週目 講義:スポーツの動機づけ 2	第13週目 トレーニング機器1	第28週目 講義:スポーツにおける「あがり」	第14週目 トレーニング計画作成	第29週目 後期試験	第15週目 まとめ	第30週目 解答、まとめ
第1週目 オリエンテーション	第16週目 オリエンテーション																																							
第2週目 ストレッチ1	第17週目 実習:介護予防運動 1(ストレッチ・アイスプレイ)																																							
第3週目 ストレッチ2	第18週目 実習:介護予防運動 2(リズム体操)																																							
第4週目 ストレッチ3	第19週目 実習:介護予防運動 3(リズム体操)																																							
第5週目 ストレッチ4	第20週目 実習:介護予防運動 4(筋カトレーニング)																																							
第6週目 ストレッチ5	第21週目 実習:介護予防運動 5(リード)																																							
第7週目 パーソナルトレーニング1	第22週目 実習:介護予防運動 6(リード)																																							
第8週目 パーソナルトレーニング2	第23週目 実技試験																																							
第9週目 パーソナルトレーニング3	第24週目 講義:スポーツスキルの制御と評価 1																																							
第10週目 パーソナルトレーニング4	第25週目 講義:スポーツスキルの制御と評価 2																																							
第11週目 トレーニング機器1	第26週目 講義:スポーツの動機づけ 1																																							
第12週目 トレーニング機器1	第27週目 講義:スポーツの動機づけ 2																																							
第13週目 トレーニング機器1	第28週目 講義:スポーツにおける「あがり」																																							
第14週目 トレーニング計画作成	第29週目 後期試験																																							
第15週目 まとめ	第30週目 解答、まとめ																																							
教科書・参考書等	必要な資料を配布する。																																							
成績評価の方法	<p>【前期】</p> <p>①出席授業態度50%</p> <p>②レポート提出50%</p> <p>【後期】</p> <p>①試験(実技試験含む)70%</p> <p>②出席授業態度30%</p>																																							
実践的教育に関する経歴等	①中学校、高等学校教諭一種免許状																																							

鍼灸スポーツ科学科

授業科目名	解剖生理学Ⅱ		授業形態	講義	教員	鈴木 亮太		No.	37																														
科目区分	専門基礎分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	3年生																														
授業概要	解剖学は生体の正常な構造を、生理学は生体の持つ様々な機能およびその調節機構を理解して臨床医学と統合する。																																						
授業の到達目標	解剖学・生理学の基礎を正確に理解し、各器官の構造と機能を理解する。																																						
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 解剖生理学 基礎</td> <td>第16週目 総合模擬問題①</td> </tr> <tr> <td>第2週目 解剖生理学 循環器</td> <td>第17週目 総合模擬問題②</td> </tr> <tr> <td>第3週目 解剖生理学 循環器</td> <td>第18週目 総合模擬問題③</td> </tr> <tr> <td>第4週目 解剖生理学 神経系</td> <td>第19週目 総合模擬問題④</td> </tr> <tr> <td>第5週目 解剖生理学 神経系</td> <td>第20週目 総合模擬問題⑤</td> </tr> <tr> <td>第6週目 解剖生理学 内分泌系</td> <td>第21週目 総合模擬問題⑥</td> </tr> <tr> <td>第7週目 解剖生理学 運動・骨格系</td> <td>第22週目 総合模擬問題⑦</td> </tr> <tr> <td>第8週目 解剖生理学 消化器・代謝</td> <td>第23週目 総合模擬問題⑧</td> </tr> <tr> <td>第9週目 解剖生理学 生殖器・体温</td> <td>第24週目 総合模擬問題⑨</td> </tr> <tr> <td>第10週目 解剖生理学 感覚器</td> <td>第25週目 総合模擬問題⑩</td> </tr> <tr> <td>第11週目 解剖生理学 呼吸器</td> <td>第26週目 総合模擬問題⑪</td> </tr> <tr> <td>第12週目 解剖生理学 総復習①</td> <td>第27週目 解剖生理学 総復習①</td> </tr> <tr> <td>第13週目 解剖生理学 総復習②</td> <td>第28週目 解剖生理学 総復習②</td> </tr> <tr> <td>第14週目 期末試験</td> <td>第29週目 期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 期末試験の解説</td> <td>第30週目 期末試験解説</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>(1)学習方法:主にプリントを配布し、教室で授業を行う。 (2)欠席により授業の配布資料を受け取れなかった場合、次の授業開始前までに、担当教員に資料を受け取りに行くこと。 (3)並行して解剖学・生理学の国家試験対策を行う。 (4)各授業で必要に応じて確認テストを行う。欠席等で受けられなかった場合は、後日、担当教員から用紙を受け取り、問題を解いて担当教員からの確認を受けること。</p>									第1週目 解剖生理学 基礎	第16週目 総合模擬問題①	第2週目 解剖生理学 循環器	第17週目 総合模擬問題②	第3週目 解剖生理学 循環器	第18週目 総合模擬問題③	第4週目 解剖生理学 神経系	第19週目 総合模擬問題④	第5週目 解剖生理学 神経系	第20週目 総合模擬問題⑤	第6週目 解剖生理学 内分泌系	第21週目 総合模擬問題⑥	第7週目 解剖生理学 運動・骨格系	第22週目 総合模擬問題⑦	第8週目 解剖生理学 消化器・代謝	第23週目 総合模擬問題⑧	第9週目 解剖生理学 生殖器・体温	第24週目 総合模擬問題⑨	第10週目 解剖生理学 感覚器	第25週目 総合模擬問題⑩	第11週目 解剖生理学 呼吸器	第26週目 総合模擬問題⑪	第12週目 解剖生理学 総復習①	第27週目 解剖生理学 総復習①	第13週目 解剖生理学 総復習②	第28週目 解剖生理学 総復習②	第14週目 期末試験	第29週目 期末試験	第15週目 期末試験の解説	第30週目 期末試験解説
第1週目 解剖生理学 基礎	第16週目 総合模擬問題①																																						
第2週目 解剖生理学 循環器	第17週目 総合模擬問題②																																						
第3週目 解剖生理学 循環器	第18週目 総合模擬問題③																																						
第4週目 解剖生理学 神経系	第19週目 総合模擬問題④																																						
第5週目 解剖生理学 神経系	第20週目 総合模擬問題⑤																																						
第6週目 解剖生理学 内分泌系	第21週目 総合模擬問題⑥																																						
第7週目 解剖生理学 運動・骨格系	第22週目 総合模擬問題⑦																																						
第8週目 解剖生理学 消化器・代謝	第23週目 総合模擬問題⑧																																						
第9週目 解剖生理学 生殖器・体温	第24週目 総合模擬問題⑨																																						
第10週目 解剖生理学 感覚器	第25週目 総合模擬問題⑩																																						
第11週目 解剖生理学 呼吸器	第26週目 総合模擬問題⑪																																						
第12週目 解剖生理学 総復習①	第27週目 解剖生理学 総復習①																																						
第13週目 解剖生理学 総復習②	第28週目 解剖生理学 総復習②																																						
第14週目 期末試験	第29週目 期末試験																																						
第15週目 期末試験の解説	第30週目 期末試験解説																																						
教科書・参考書等	教科書:医歯薬出版「解剖学」「生理学」を使用する。																																						
成績評価の方法	<p>1. 期末試験の得点 2. 授業態度及び出席状況</p> <p>上記項目から総合的に評価し、通年成績が120点以上になった場合のみ単位を認定する。 ※なお、確認テストの提出および担当教員からの合格が得られない場合は、2点減点としその都度、期末試験から減点する。</p>																																						
実践的教育に関する経歴等	鍼灸整骨院の勤務歴あり。																																						

鍼灸スポーツ科学科

授業科目名	衛生学・公衆衛生学		授業形態	講義	教員	樋口 勝広		No.	38
科目区分	専門基礎分野	単位	2	時間	30	期間	半期(15回)	対象学年	3年生
授業概要	多分野からなる衛生学・公衆衛生学のなかで、向上を目指すため鍼灸師が担う役割について深く考察し学ぶ。								
授業の到達目標	衛生学・公衆衛生学の学習を通して、疫病予防・健康増進の方法を理解する。								
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 第1章～第4章 衛生学の意義～健康</p> <p>第2週目 第1章から第4章 健康～ライフスタイルと健康</p> <p>第3週目 第4章～第7章 環境と健康～精神保健</p> <p>第4週目 第7章～第12章 精神保健～保健統計</p> <p>第5週目 第7章～第12章 精神保健～保健統計</p> <p>第6週目 第1～2章 ・衛生学・公衆衛生学の意義 ・健康</p> <p>第7週目 第3～4章 ・ライフスタイルと健康 ・環境と健康</p> <p>第8週目 第5～6章 ・産業保健 ・精神保健</p> <p>第9週目 第7章～第8章 ・母子保健 ・成人の保健 ・高齢者の保健</p> <p>第10週目 第9章・消毒 ・感染症とその対策</p> <p>第11週目 第10章消毒法</p> <p>第12週目 第11～12章 ・疫学 ・保健統計</p> <p>第13週目 復習＋問題</p> <p>第14週目 前期期末試験</p> <p>第15週目 試験解説</p> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>学習方法 主にプリントを配布し、授業を行う。各々プリントをもとに教科書を熟読すること。 国家試験の科目でもある為、その都度復習を必ず行うこと。 欠席等での後かのらプリントの請求は次の授業前までに職員室にて行うこと。</p>								
教科書・参	医歯薬出版株式会社『衛生学・公衆衛生学』を使用する。								
成績評価の方法 実践的教育に関する経歴等	<p>1) 期末試験の得点</p> <p>2) 授業態度、出席状況および提出課題の内容</p> <p>上記項目から総合的に評価し、通年成績が120点以上となった場合のみ単位を認定する。</p> <p>鍼灸整骨院の勤務歴あり。</p>								

授業科目名	運動学			授業形態	講義	教員	南洞 大有		No.	39
科目区分	専門基礎分野	単位	1	時間	30	期間	半期(15回)	対象学年	3年生	
授業概要	筋骨格と関節の基本構造と関係性を学び、上肢・下肢・体幹の運動について理解を深める。歩行のメカニズムも学ぶ。									
授業の到達目標	(1) 関節の基本構造を理解する。 (2) 筋肉の起始停止を理解する。 (3) 関節運動と筋肉の関係性を理解する。									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 関節運動とテコ、姿勢、運動 第2週目 肩甲帯と肩の構造と運動① 第3週目 肩甲帯と肩の構造と運動② 第4週目 肘と前腕の構造と運動 第5週目 手と手指の構造と運動① 第6週目 手と手指の構造と運動② 第7週目 体幹の機能、呼吸の構造と運動 第8週目 骨盤と股関節の構造と運動 第9週目 膝関節の構造と運動① 第10週目 膝関節の構造と運動② 第11週目 足の構造と運動① 第12週目 足の構造と運動② 第13週目 歩行 第14週目 期末試験 第15週目 期末試験の解説 (授業の方法および自学学習について) (1) 授業では資料を送付する。 (2) 授業中に実際に関節運動を行うので、関節が動きやすい服装が好ましい。									
教科書・参考書等	教科書: 医歯薬出版「解剖学」「リハビリテーション医学」									
成績評価の方法	期末試験の成績が60点以上を合格とする。									
実践的教育に関する経歴等	鍼灸整骨院の勤務歴あり。鍼灸整骨院の開業歴あり。									

授業科目名	臨床医学各論Ⅱ			授業形態	講義	教員	大渡 光弘		No.	40																														
科目区分	専門基礎分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	3年生																															
授業概要	各疾病について、成因、疫学、病態生理、主要な症状、検査所見などについて学んでいきます。																																							
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・疾患の原因を説明できる。 ・疾患の症状の特徴を解剖生理学から紐解くことができる。 ・疾患を確定するための検査およびその所見を説明できる。 																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 第11章 神経疾患①脳血管障害 脳梗塞</td> <td>第16週目 実力試験①</td> </tr> <tr> <td>第2週目 第11章 神経疾患②脳血管障害 脳出血</td> <td>第17週目 実力試験②</td> </tr> <tr> <td>第3週目 第11章 神経疾患③感染性疾患、脳・脊髄腫瘍</td> <td>第18週目 実力試験③</td> </tr> <tr> <td>第4週目 第11章 神経疾患④基底核、その他の変性疾患</td> <td>第19週目 実力試験④</td> </tr> <tr> <td>第5週目 第11章 神経疾患⑤認知症、筋ジス</td> <td>第20週目 実力試験⑤</td> </tr> <tr> <td>第6週目 第11章 神経疾患⑥末梢神経性疾患</td> <td>第21週目 実力試験⑥</td> </tr> <tr> <td>第7週目 第12章 リウマチ性疾患・膠原病①</td> <td>第22週目 実力試験⑦</td> </tr> <tr> <td>第8週目 第12章 リウマチ性疾患・膠原病②</td> <td>第23週目 実力試験⑧</td> </tr> <tr> <td>第9週目 第13章 その他の領域①小児科疾患、一般外科</td> <td>第24週目 実力試験⑨</td> </tr> <tr> <td>第10週目 第13章 その他の領域②麻酔科、婦人科疾患</td> <td>第25週目 実力試験⑩</td> </tr> <tr> <td>第11週目 第13章 その他の領域③皮膚科疾患、感覚器疾患</td> <td>第26週目 実力試験⑪</td> </tr> <tr> <td>第12週目 第13章 その他の領域④精神科疾患</td> <td>第27週目 実力試験⑫</td> </tr> <tr> <td>第13週目 後期まとめ</td> <td>第28週目 実力試験⑬</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期期末試験</td> <td>第29週目 後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 試験解説</td> <td>第30週目 試験解説</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>主にプリントを配布し、パワーポイントを使用し授業を行う。 各々プリントをもとに教科書を熟読すること。 国家試験の科目でもある為、その都度復習を必ず行うこと。 欠席等での後からプリントの請求は次の授業前までに職員室にて行うこと。 自学自習については、特に大事な部分を、「まとめ資料」として配付いたします。それを中心に学習してください。</p>										第1週目 第11章 神経疾患①脳血管障害 脳梗塞	第16週目 実力試験①	第2週目 第11章 神経疾患②脳血管障害 脳出血	第17週目 実力試験②	第3週目 第11章 神経疾患③感染性疾患、脳・脊髄腫瘍	第18週目 実力試験③	第4週目 第11章 神経疾患④基底核、その他の変性疾患	第19週目 実力試験④	第5週目 第11章 神経疾患⑤認知症、筋ジス	第20週目 実力試験⑤	第6週目 第11章 神経疾患⑥末梢神経性疾患	第21週目 実力試験⑥	第7週目 第12章 リウマチ性疾患・膠原病①	第22週目 実力試験⑦	第8週目 第12章 リウマチ性疾患・膠原病②	第23週目 実力試験⑧	第9週目 第13章 その他の領域①小児科疾患、一般外科	第24週目 実力試験⑨	第10週目 第13章 その他の領域②麻酔科、婦人科疾患	第25週目 実力試験⑩	第11週目 第13章 その他の領域③皮膚科疾患、感覚器疾患	第26週目 実力試験⑪	第12週目 第13章 その他の領域④精神科疾患	第27週目 実力試験⑫	第13週目 後期まとめ	第28週目 実力試験⑬	第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験	第15週目 試験解説	第30週目 試験解説
第1週目 第11章 神経疾患①脳血管障害 脳梗塞	第16週目 実力試験①																																							
第2週目 第11章 神経疾患②脳血管障害 脳出血	第17週目 実力試験②																																							
第3週目 第11章 神経疾患③感染性疾患、脳・脊髄腫瘍	第18週目 実力試験③																																							
第4週目 第11章 神経疾患④基底核、その他の変性疾患	第19週目 実力試験④																																							
第5週目 第11章 神経疾患⑤認知症、筋ジス	第20週目 実力試験⑤																																							
第6週目 第11章 神経疾患⑥末梢神経性疾患	第21週目 実力試験⑥																																							
第7週目 第12章 リウマチ性疾患・膠原病①	第22週目 実力試験⑦																																							
第8週目 第12章 リウマチ性疾患・膠原病②	第23週目 実力試験⑧																																							
第9週目 第13章 その他の領域①小児科疾患、一般外科	第24週目 実力試験⑨																																							
第10週目 第13章 その他の領域②麻酔科、婦人科疾患	第25週目 実力試験⑩																																							
第11週目 第13章 その他の領域③皮膚科疾患、感覚器疾患	第26週目 実力試験⑪																																							
第12週目 第13章 その他の領域④精神科疾患	第27週目 実力試験⑫																																							
第13週目 後期まとめ	第28週目 実力試験⑬																																							
第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験																																							
第15週目 試験解説	第30週目 試験解説																																							
教科書・参考書等	教科書: 医歯薬出版「臨床医学各論」 参考書: (株)メディックメディア「病気がみえる」																																							
成績評価の方法	出席状況及び小テストや課題のクリア、期末試験の結果を総合して60%以上を合格とする。 ※小テスト及び課題のクリアがなければ、その都度2点減点とし、期末試験から引くこととする。 なお定期試験毎に点数の満たなかったものは、再試験前に指示・指導を仰ぐこと。																																							
実践的教育に関する経歴等	整形外科・鍼灸院・接骨院の勤務歴有り。																																							

授業科目名	医療概論			授業形態	講義	教員	南洞 大有		No.	41
科目区分	専門基礎分野	単位	1	時間	30	期間	半期(15回)	対象学年	3年生	
授業概要	医療の歴史を西洋医学・東洋医学の方面から理解し、現代医療の概要・課題を理解する。 医療従事者として自らと患者のための医療倫理を理解する。									
授業の 到達目標	(1) 医療を行うものとして医療倫理を基盤とした意識を身につける。 (2) 西洋・東洋の医学史を理解する。									
授業内容 ・計画	<p>(授業計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1週目 医療倫理① 第2週目 医療倫理② 第3週目 医学史序説 第4週目 西洋医学の歴史① 第5週目 西洋医学の歴史② 第6週目 中国医学の歴史① 第7週目 中国医学の歴史② 第8週目 日本医学の歴史① 第9週目 日本医学の歴史② 第10週目 現代の医療制度① 第11週目 現代の医療制度② 第12週目 現代の医学の課題 第13週目 期末試験模擬試験 第14週目 期末試験 第15週目 期末試験の解説 <p>(授業の方法および自学学習について) 教科書を中心に、授業を行う。</p>									
教科書・ 参考書等	『医療概論』『新版 東洋医学概論』を使用する。									
成績評価 の方法	期末試験の成績が60点以上を合格とする。									
実践的教育に 関する経歴等	鍼灸整骨院の勤務歴あり。鍼灸整骨院の開業歴あり。									

授業科目名	関係法規			授業形態	講義	教員	大渡 光弘		No.	42
科目区分	専門分野	単位	1	時間	30	期間	半期(15回)	対象学年	3年生	
授業概要	将来はり師・きゅう師になる者として知っておかなければならない法律や規則等の知識を身につける。									
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. はり師・きゅう師になるために必要な資格の要件を覚える。 2. 免許に関係する事務・手続きについて覚える。 3. はり師・きゅう師の業務範囲について理解する。 4. 施術所などに関係する規則について覚える。 5. はり師・きゅう師に関係する罰則について覚える。 6. 医療関係法規の概要を覚える。 7. 社会福祉関係の法律の概要について理解する 									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 第1章あ・は・き師法 法とは何か 免許と試験</p> <p>第2週目 あはき法 法制定の目的 免許と試験</p> <p>第3週目 あはき法 業務について</p> <p>第4週目 あはき法 施術所などに関する規則</p> <p>第5週目 あはき法 広告制限 業務の停止</p> <p>第6週目 あはき法 無免許営業の取締り いわゆる医業類似行為業について</p> <p>第7週目 学校・養成施設について</p> <p>第8週目 指定試験機関について</p> <p>第9週目 罰則について 施術者などに関する罰則 施術所に関する罰則 その他の罰則</p> <p>第10週目 第2章 関係法規 医事法規と医療制度</p> <p>第11週目 医療法 医師法</p> <p>第12週目 その他の医療従事者に関する法律 保助看法～柔道整復師法</p> <p>第13週目 診療放射線技師法～救急救命士法 薬事法規 衛生関係法規</p> <p>第14週目 前期期末試験</p> <p>第15週目 社会保険関係法規</p> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>学習方法 主にプリントを配布し、授業を行う。各々プリントをもとに教科書を熟読すること。 国家試験の科目でもある為、その都度復習を必ず行うこと。 欠席等での後からプリントの請求は次の授業前までに職員室にて行うこと。</p>									
教科書・参考書等	教科書: 医歯薬出版株式会社の「関係法規」を使用する。									
成績評価の方法	出席状況及び小テストや課題のクリア、期末試験の結果を総合して60%以上を合格とする。 ※なお定期試験毎に点数の満たなかったものは、再試験前に指示・指導を仰ぐこと。									
実践的教育に関する経歴等	整形外科・鍼灸院・接骨院の勤務歴有り。									

授業科目名	保健福祉医療			授業形態	講義	教員	大渡 光弘		No.	43
科目区分	専門基礎分野	単位	1	時間	15	期間	集中	対象学年	3年生	
授業概要	医療人として最低知っておかなければならない社会保障制度を学ぶとともにはり師・きゆう師としての職業倫理を学び医療人としてのモラル・考え方を学ぶ。									
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障制度の仕組みを理解する。 ・社会保障制度の種類を理解する。 ・はり師、きゆう師の療養費について理解する。 ・はり師、きゆう師としての倫理観を理解する。 									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 社会保障制度① 社会保障とは</p> <p>第2週目 社会保障制度② 医療保険 公的扶助</p> <p>第3週目 社会保障制度③ 医療費の推移</p> <p>第4週目 社会保障制度④ 療養費とは</p> <p>第5週目 職業倫理① はり師・きゆう師の業務</p> <p>第6週目 職業倫理②グループ討議 症例①</p> <p>第7週目 職業倫理③グループ討議 症例②</p> <p>第8週目 期末試験</p> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>主にプリントを配布し、それをベースに授業を行う。</p>									
教科書・参考書等										
成績評価の方法	<p>1. グループ討議にはる、班単位の提出物による評価</p> <p>2. 期末試験の結果</p> <p>※グループ討議の提出物(評価の60%)、期末試験結果(評価の40%)を総合して評価する。</p>									
実践的教育に関する経歴等	整形外科・鍼灸院・接骨院の勤務歴有り。									

授業科目名	東洋医学臨床論Ⅲ			授業形態	講義	教員	樋口勝広		No.	44																														
科目区分	専門分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	3年生																															
授業概要	各疾患、症状に対する現代・東洋両医学の病態を理解し、先ず鍼灸治療の適応・不適応について熟知する。そのうえで現代医学的な鍼灸治療法と東洋医学的な鍼灸治療法について学び、様々な角度から鍼灸治療によるアプローチができるように学習していく。																																							
授業の到達目標	各疾患、症状に対し現代・東洋両医学からのアプローチ方法について理解する。																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 肩こりについて(現代医学的な考え方)</td> <td>第16週目 肩こりについて(東洋医学的な考え方)</td> </tr> <tr> <td>第2週目 頸肩腕症候群(現代医学的な考え方)</td> <td>第17週目 頸肩腕症候群(東洋医学的な考え方)</td> </tr> <tr> <td>第3週目 肩関節痛(現代医学的な考え方)①</td> <td>第18週目 肩関節痛(東洋医学的な考え方)①</td> </tr> <tr> <td>第4週目 肩関節痛(現代医学的な考え方)②</td> <td>第19週目 肩関節痛(東洋医学的な考え方)②</td> </tr> <tr> <td>第5週目 腰下肢痛(現代医学的な考え方)①</td> <td>第20週目 腰下肢痛(東洋医学的な考え方)①</td> </tr> <tr> <td>第6週目 腰下肢痛(現代医学的な考え方)②</td> <td>第21週目 腰下肢痛(東洋医学的な考え方)②</td> </tr> <tr> <td>第7週目 膝痛(現代医学的な考え方)</td> <td>第22週目 膝痛(東洋医学的な考え方)</td> </tr> <tr> <td>第8週目 運動麻痺(現代医学的な考え方)</td> <td>第23週目 運動麻痺(東洋医学的な考え方)</td> </tr> <tr> <td>第9週目 スポーツ医学における鍼灸療法(現代医学的な考え方)①</td> <td>第24週目 スポーツ医学における鍼灸療法(東洋医学的な考え方)①</td> </tr> <tr> <td>第10週目 スポーツ医学における鍼灸療法(現代医学的な考え方)②</td> <td>第25週目 スポーツ医学における鍼灸療法(東洋医学的な考え方)②</td> </tr> <tr> <td>第11週目 スポーツ医学における鍼灸療法(現代医学的な考え方)③</td> <td>第26週目 スポーツ医学における鍼灸療法(東洋医学的な考え方)③</td> </tr> <tr> <td>第12週目 スポーツ医学における鍼灸療法(現代医学的な考え方)④</td> <td>第27週目 スポーツ医学における鍼灸療法(東洋医学的な考え方)④</td> </tr> <tr> <td>第13週目 老年医学における鍼灸療法(現代医学的な考え方)</td> <td>第28週目 老年医学における鍼灸療法(東洋医学的な考え方)</td> </tr> <tr> <td>第14週目 期末試験</td> <td>第29週目 期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 期末試験解説</td> <td>第30週目 期末試験解説</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>1)各授業で小テストやレポート提出を課す場合がある。その場合小テストの結果や、レポートの作成具合は成績に加味されるので留意すること。</p>										第1週目 肩こりについて(現代医学的な考え方)	第16週目 肩こりについて(東洋医学的な考え方)	第2週目 頸肩腕症候群(現代医学的な考え方)	第17週目 頸肩腕症候群(東洋医学的な考え方)	第3週目 肩関節痛(現代医学的な考え方)①	第18週目 肩関節痛(東洋医学的な考え方)①	第4週目 肩関節痛(現代医学的な考え方)②	第19週目 肩関節痛(東洋医学的な考え方)②	第5週目 腰下肢痛(現代医学的な考え方)①	第20週目 腰下肢痛(東洋医学的な考え方)①	第6週目 腰下肢痛(現代医学的な考え方)②	第21週目 腰下肢痛(東洋医学的な考え方)②	第7週目 膝痛(現代医学的な考え方)	第22週目 膝痛(東洋医学的な考え方)	第8週目 運動麻痺(現代医学的な考え方)	第23週目 運動麻痺(東洋医学的な考え方)	第9週目 スポーツ医学における鍼灸療法(現代医学的な考え方)①	第24週目 スポーツ医学における鍼灸療法(東洋医学的な考え方)①	第10週目 スポーツ医学における鍼灸療法(現代医学的な考え方)②	第25週目 スポーツ医学における鍼灸療法(東洋医学的な考え方)②	第11週目 スポーツ医学における鍼灸療法(現代医学的な考え方)③	第26週目 スポーツ医学における鍼灸療法(東洋医学的な考え方)③	第12週目 スポーツ医学における鍼灸療法(現代医学的な考え方)④	第27週目 スポーツ医学における鍼灸療法(東洋医学的な考え方)④	第13週目 老年医学における鍼灸療法(現代医学的な考え方)	第28週目 老年医学における鍼灸療法(東洋医学的な考え方)	第14週目 期末試験	第29週目 期末試験	第15週目 期末試験解説	第30週目 期末試験解説
第1週目 肩こりについて(現代医学的な考え方)	第16週目 肩こりについて(東洋医学的な考え方)																																							
第2週目 頸肩腕症候群(現代医学的な考え方)	第17週目 頸肩腕症候群(東洋医学的な考え方)																																							
第3週目 肩関節痛(現代医学的な考え方)①	第18週目 肩関節痛(東洋医学的な考え方)①																																							
第4週目 肩関節痛(現代医学的な考え方)②	第19週目 肩関節痛(東洋医学的な考え方)②																																							
第5週目 腰下肢痛(現代医学的な考え方)①	第20週目 腰下肢痛(東洋医学的な考え方)①																																							
第6週目 腰下肢痛(現代医学的な考え方)②	第21週目 腰下肢痛(東洋医学的な考え方)②																																							
第7週目 膝痛(現代医学的な考え方)	第22週目 膝痛(東洋医学的な考え方)																																							
第8週目 運動麻痺(現代医学的な考え方)	第23週目 運動麻痺(東洋医学的な考え方)																																							
第9週目 スポーツ医学における鍼灸療法(現代医学的な考え方)①	第24週目 スポーツ医学における鍼灸療法(東洋医学的な考え方)①																																							
第10週目 スポーツ医学における鍼灸療法(現代医学的な考え方)②	第25週目 スポーツ医学における鍼灸療法(東洋医学的な考え方)②																																							
第11週目 スポーツ医学における鍼灸療法(現代医学的な考え方)③	第26週目 スポーツ医学における鍼灸療法(東洋医学的な考え方)③																																							
第12週目 スポーツ医学における鍼灸療法(現代医学的な考え方)④	第27週目 スポーツ医学における鍼灸療法(東洋医学的な考え方)④																																							
第13週目 老年医学における鍼灸療法(現代医学的な考え方)	第28週目 老年医学における鍼灸療法(東洋医学的な考え方)																																							
第14週目 期末試験	第29週目 期末試験																																							
第15週目 期末試験解説	第30週目 期末試験解説																																							
教科書・参考書等	教科書以外の参考書として、以下の教科書を参考に復習することが望ましい。 臨床医学総論第2版:医歯薬出版 臨床医学各論第2版:医歯薬出版 新版東洋医学概論:医道の日本社																																							
成績評価の方法	1)各学期で実施する期末試験の得点 2)出席状況及び授業態度 3)小テストやレポート提出を課した場合、その結果・作成具合 上記項目から総合的に評価し、通年成績が120点以上になった場合のみ単位を認定する。																																							
実践的教育に関する経歴等	鍼灸整骨院の勤務歴あり。鍼灸整骨院の開業歴あり。																																							

授業科目名	臨床はりきゅう学Ⅴ			授業形態	講義	教員	大渡 光弘		No.	45
科目区分	専門分野	単位	1	時間	30	期間	半期(15回)	対象学年	3年生	
授業概要	各疾患についての特徴についてPPで説明し、必要事項を記入しながら学んでいきます。									
授業の 到達目標	臨床医学各論の疾患をベースに、解剖学的・生理学的見地から症状・検査値が推測・推察ができるようになる。									
授業内容 ・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 感染症</p> <p>第2週目 消化器①</p> <p>第3週目 消化器②</p> <p>第4週目 肝胆膵</p> <p>第5週目 呼吸器①</p> <p>第6週目 呼吸器②</p> <p>第7週目 腎・尿路系①</p> <p>第8週目 腎・尿路系②</p> <p>第9週目 内分泌</p> <p>第10週目 代謝・栄養</p> <p>第11週目 循環器①</p> <p>第12週目 循環器②</p> <p>第13週目 血液・造血器</p> <p>第14週目 期末試験</p> <p>第15週目 期末試験の解説</p> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>1)学習方法:主にプリントを配布し、教室で授業を行う。 2)授業毎に課題をだし、理解を深める。</p>									
教科書・ 参考書等	医歯薬出版株式会社『臨床医学各論』を使用する。									
成績評価 の方法	<p>1. 期末試験の得点。成績が60点以上となった場合のみ単位を認定する。</p> <p>2. 授業毎に出題される課題を次回の授業までに提出すること。提出されない場合には1課題事に2点減点とし、期末試験から減数する。</p>									
実践的教育に 関する経歴等	鍼灸整骨院の勤務歴あり。									

授業科目名	社会はりきゅう学			授業形態	講義	教員	村田 幸一		No.	46																														
科目区分	専門分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	3年生																															
授業概要	<p>はり師、きゅう師を取り巻く環境について学ぶ。 はり師、きゅう師の歴史、医療保険制度、介護保険、介護予防運動、癌患者や人口透析患者のQOL。 アクシデントとインシデントを学ぶ。 将来日本で起こる少子化問題でも不妊症の男女のケアなども学ぶ。</p>																																							
授業の 到達目標	<p>高齢者に対する介護予防運動の概要。癌患者、人工透析患者へのアプローチ。 アクシデントとインシデントの対応と予防。 不妊症の男女に対するケアとアプローチ、少子化問題 高齢者、癌患者、人工透析患者、不妊症の患者に適切なアプローチを目標とする。</p>																																							
授業内容 ・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 日本における鍼灸の歴史と現況概観</td> <td>第16週目 男性の健康管理におけるはりきゅう師役割</td> </tr> <tr> <td>第2週目 現代鍼灸における社会的背景について</td> <td>第17週目 ストレス社会におけるはりきゅう師の役割</td> </tr> <tr> <td>第3週目 はりきゅう師を取り巻く環境について</td> <td>第18週目 精神疾患におけるはりきゅう師の役割</td> </tr> <tr> <td>第4週目 医療保険制度と介護保険制度の概要</td> <td>第19週目 子供の精神疾患のはりきゅう師の役割</td> </tr> <tr> <td>第5週目 社会保障制度下におけるはりきゅう師の役割</td> <td>第20週目 スポーツ傷害に対するはりきゅう師の役割</td> </tr> <tr> <td>第6週目 医療機関におけるはりきゅう師の役割</td> <td>第21週目 QOLの向上について</td> </tr> <tr> <td>第7週目 鍼灸治療への期待</td> <td>第22週目 癌治療に伴う愁訴へのアプローチ</td> </tr> <tr> <td>第8週目 在宅医療</td> <td>第23週目 緩和ケア(ターミナル)</td> </tr> <tr> <td>第9週目 介護保険下での業務</td> <td>第24週目 人工透析患者へのアプローチ</td> </tr> <tr> <td>第10週目 併用するその他の治療法</td> <td>第25週目 リンパ浮腫患者へのアプローチ</td> </tr> <tr> <td>第11週目 高齢者社会におけるはりきゅう師の役割</td> <td>第26週目 施術所開設と必要な法律知識</td> </tr> <tr> <td>第12週目 高齢者社会におけるはりきゅう師の役割</td> <td>第27週目 広報・宣伝の制限</td> </tr> <tr> <td>第13週目 DVD「うまれる」死産と出産を乗り越えて</td> <td>第28週目 アクシデントとインシデントの対応と予防</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期期末試験</td> <td>第29週目 後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 女性の健康管理におけるはりきゅう師役割</td> <td>第30週目 今後の鍼灸師の展望について</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>(1)教科書を中心に授業を行う。 (2)適時に資料を配付する。</p>										第1週目 日本における鍼灸の歴史と現況概観	第16週目 男性の健康管理におけるはりきゅう師役割	第2週目 現代鍼灸における社会的背景について	第17週目 ストレス社会におけるはりきゅう師の役割	第3週目 はりきゅう師を取り巻く環境について	第18週目 精神疾患におけるはりきゅう師の役割	第4週目 医療保険制度と介護保険制度の概要	第19週目 子供の精神疾患のはりきゅう師の役割	第5週目 社会保障制度下におけるはりきゅう師の役割	第20週目 スポーツ傷害に対するはりきゅう師の役割	第6週目 医療機関におけるはりきゅう師の役割	第21週目 QOLの向上について	第7週目 鍼灸治療への期待	第22週目 癌治療に伴う愁訴へのアプローチ	第8週目 在宅医療	第23週目 緩和ケア(ターミナル)	第9週目 介護保険下での業務	第24週目 人工透析患者へのアプローチ	第10週目 併用するその他の治療法	第25週目 リンパ浮腫患者へのアプローチ	第11週目 高齢者社会におけるはりきゅう師の役割	第26週目 施術所開設と必要な法律知識	第12週目 高齢者社会におけるはりきゅう師の役割	第27週目 広報・宣伝の制限	第13週目 DVD「うまれる」死産と出産を乗り越えて	第28週目 アクシデントとインシデントの対応と予防	第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験	第15週目 女性の健康管理におけるはりきゅう師役割	第30週目 今後の鍼灸師の展望について
第1週目 日本における鍼灸の歴史と現況概観	第16週目 男性の健康管理におけるはりきゅう師役割																																							
第2週目 現代鍼灸における社会的背景について	第17週目 ストレス社会におけるはりきゅう師の役割																																							
第3週目 はりきゅう師を取り巻く環境について	第18週目 精神疾患におけるはりきゅう師の役割																																							
第4週目 医療保険制度と介護保険制度の概要	第19週目 子供の精神疾患のはりきゅう師の役割																																							
第5週目 社会保障制度下におけるはりきゅう師の役割	第20週目 スポーツ傷害に対するはりきゅう師の役割																																							
第6週目 医療機関におけるはりきゅう師の役割	第21週目 QOLの向上について																																							
第7週目 鍼灸治療への期待	第22週目 癌治療に伴う愁訴へのアプローチ																																							
第8週目 在宅医療	第23週目 緩和ケア(ターミナル)																																							
第9週目 介護保険下での業務	第24週目 人工透析患者へのアプローチ																																							
第10週目 併用するその他の治療法	第25週目 リンパ浮腫患者へのアプローチ																																							
第11週目 高齢者社会におけるはりきゅう師の役割	第26週目 施術所開設と必要な法律知識																																							
第12週目 高齢者社会におけるはりきゅう師の役割	第27週目 広報・宣伝の制限																																							
第13週目 DVD「うまれる」死産と出産を乗り越えて	第28週目 アクシデントとインシデントの対応と予防																																							
第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験																																							
第15週目 女性の健康管理におけるはりきゅう師役割	第30週目 今後の鍼灸師の展望について																																							
教科書・ 参考書等	<p>社会あはき学 社団法人東洋療法学校協会編(医道の日本) 14歳からの精神医学 日本評論社</p>																																							
成績評価 の方法	<p>レポートの提出(期日を守る) 前期・後期期末試験が合計で120点以上であること。</p>																																							
実践的教育に 関する経歴等	<p>鍼灸整骨院の勤務歴あり。</p>																																							

授業科目名	臨床はりきゅう実技Ⅱ	授業形態	講義	教員	神谷 美香	No.	47																																
科目区分	専門分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	3年生																														
授業概要	現代の鍼灸師として、他の医療従事者と連携をとれるだけの最低限の医療知識や共通用語を身に着ける。実際の臨床例をもとに、疾患の鑑別から治療の組み立てる。実習のまとめに疾患ごとに発表を行う。																																						
授業の 到達目標	1) 鍼灸治療の対象であるか否かを判別できる。 2) 患者のカルテ作成ができる。 3) 問診や診察の情報から患者の病態把握を推察し、治療計画を立てることができる。																																						
授業内容 ・計画	(授業計画) <table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%;">第1週目 オリエンテーション</td> <td style="width:50%;">第16週目 頭・顔面①</td> </tr> <tr> <td>第2週目 診察・検査・測定法・治療方針</td> <td>第17週目 頭・顔面②</td> </tr> <tr> <td>第3週目 診察・検査・測定法・治療方針</td> <td>第18週目 頭・顔面③</td> </tr> <tr> <td>第4週目 首・肩・上肢①</td> <td>第19週目 冷え①</td> </tr> <tr> <td>第5週目 首・肩・上肢②</td> <td>第20週目 冷え②</td> </tr> <tr> <td>第6週目 首・肩・上肢③</td> <td>第21週目 冷え③</td> </tr> <tr> <td>第7週目 背・腰・下肢①</td> <td>第22週目 婦人科①</td> </tr> <tr> <td>第8週目 背・腰・下肢②</td> <td>第23週目 婦人科②</td> </tr> <tr> <td>第9週目 背・腰・下肢③</td> <td>第24週目 婦人科③</td> </tr> <tr> <td>第10週目 膝①</td> <td>第25週目 脳血管障害後遺症①</td> </tr> <tr> <td>第11週目 膝②</td> <td>第26週目 脳血管障害後遺症②</td> </tr> <tr> <td>第12週目 膝③</td> <td>第27週目 脳血管障害後遺症③</td> </tr> <tr> <td>第13週目 耳鼻①</td> <td>第28週目 パーキンソン病①</td> </tr> <tr> <td>第14週目 耳鼻②</td> <td>第29週目 パーキンソン病②</td> </tr> <tr> <td>第15週目 耳鼻③</td> <td>第30週目 パーキンソン病③</td> </tr> </table> (授業の方法および自学学習について) 1) 2グループに分け、各グループ違う症例を検討する。 すべての学生が参加するように各自役割を与える。 2) 毎疾患ごと分かれたグループごとに症例報告を行う。									第1週目 オリエンテーション	第16週目 頭・顔面①	第2週目 診察・検査・測定法・治療方針	第17週目 頭・顔面②	第3週目 診察・検査・測定法・治療方針	第18週目 頭・顔面③	第4週目 首・肩・上肢①	第19週目 冷え①	第5週目 首・肩・上肢②	第20週目 冷え②	第6週目 首・肩・上肢③	第21週目 冷え③	第7週目 背・腰・下肢①	第22週目 婦人科①	第8週目 背・腰・下肢②	第23週目 婦人科②	第9週目 背・腰・下肢③	第24週目 婦人科③	第10週目 膝①	第25週目 脳血管障害後遺症①	第11週目 膝②	第26週目 脳血管障害後遺症②	第12週目 膝③	第27週目 脳血管障害後遺症③	第13週目 耳鼻①	第28週目 パーキンソン病①	第14週目 耳鼻②	第29週目 パーキンソン病②	第15週目 耳鼻③	第30週目 パーキンソン病③
第1週目 オリエンテーション	第16週目 頭・顔面①																																						
第2週目 診察・検査・測定法・治療方針	第17週目 頭・顔面②																																						
第3週目 診察・検査・測定法・治療方針	第18週目 頭・顔面③																																						
第4週目 首・肩・上肢①	第19週目 冷え①																																						
第5週目 首・肩・上肢②	第20週目 冷え②																																						
第6週目 首・肩・上肢③	第21週目 冷え③																																						
第7週目 背・腰・下肢①	第22週目 婦人科①																																						
第8週目 背・腰・下肢②	第23週目 婦人科②																																						
第9週目 背・腰・下肢③	第24週目 婦人科③																																						
第10週目 膝①	第25週目 脳血管障害後遺症①																																						
第11週目 膝②	第26週目 脳血管障害後遺症②																																						
第12週目 膝③	第27週目 脳血管障害後遺症③																																						
第13週目 耳鼻①	第28週目 パーキンソン病①																																						
第14週目 耳鼻②	第29週目 パーキンソン病②																																						
第15週目 耳鼻③	第30週目 パーキンソン病③																																						
教科書・ 参考 考書等	東洋医学臨床論, 臨床医学各論, 臨床医学総論など どんなものでも資料となるものの持ち込み可。																																						
成績評価 の方法	1) 出席状況 2) 課題提出 3) 各疾患ごとのプレゼン 上記項目から総合的に評価。通年成績が60%以上で単位を認定。																																						
実践的教育に 関する経歴等	①鍼師・灸師・あん摩マッサージ指圧師 ②鍼灸マッサージ教員免許 ③鍼灸マッサージ院勤務																																						

授業科目名	スポーツ鍼灸実技			授業形態	講義	教員	南洞 大有		No.	48
科目区分	専門分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	3年生	
授業概要	1. スポーツ外傷への救急処置(主にRICE)を身につける。 2. スポーツ傷害に対する鍼灸治療を身につける。									
授業の到達目標	スポーツ傷害への応急処置法と鍼灸治療を身につける。									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 外傷と評価と応急処置(RICE) 第16週目 大腿部の傷害への鍼灸治療① 第2週目 軟部組織損傷への鍼灸治療① 第17週目 大腿部の傷害への鍼灸治療② 第3週目 軟部組織損傷への鍼灸治療② 第18週目 腰部の傷害への鍼灸治療 第4週目 コンパートメント症候群への鍼灸治療① 第19週目 腰仙部傷害への鍼灸治療① 第5週目 コンパートメント症候群への鍼灸治療② 第20週目 腰仙部傷害への鍼灸治療② 第6週目 シンスプリントの鍼灸治療① 第21週目 背部・腹部傷害への鍼灸治療 第7週目 シンスプリントの鍼灸治療② 第22週目 手関節・前腕部傷害への鍼灸治療 第8週目 アキレス腱傷害への鍼灸治療① 第23週目 前腕部・肘部傷害への鍼灸治療 第9週目 アキレス腱傷害への鍼灸治療② 第24週目 上腕部・肩部傷害への鍼灸治療 第10週目 足関節傷害への鍼灸治療① 第25週目 胸部・肩部傷害への鍼灸治療 第11週目 足関節の傷害の鍼灸治療② 第26週目 肩背部傷害への鍼灸治療 第12週目 足部の傷害への鍼灸治療① 第27週目 頸部傷害への鍼灸治療① 第13週目 足部の傷害への鍼灸治療② 第28週目 頸部傷害への鍼灸治療② 第14週目 前期期末試験 第29週目 後期期末試験 第15週目 熱中症について 第30週目 長鍼(3寸)での腸腰筋への刺鍼 (授業の方法および自学学習について) (1)本講義は実技のため、開始時間までに実習室2に白衣着用で集合する事。 (2)生徒同士で鍼灸を行うので、患者役に白衣内はタンクトップと短パンを着用の事。 (3)授業では資料を送付する。									
教科書・参考書等	『東洋医学臨床論 <鍼灸編>』を使用する。									
成績評価の方法	1) 期末試験の得点。 2) 出席状況。 上記項目から総合的評価して120点以上を合格とする。									
実践的教育に関する経歴等	鍼灸整骨院の勤務歴あり。鍼灸整骨院の開業歴あり。									

授業科目名	臨床実習Ⅲ			授業形態	講義	教員	樋口 勝広		No.	49																														
科目区分	専門分野	単位	1	時間	45	期間	通年(30回)	対象学年	3年生																															
授業概要	臨床における患者への対応やこれまでに身に着けた基本的な知識などを成熟させ、患者さんの対応ができ、臨床に繋がられるようになる。																																							
授業の到達目標	これまで学んできた臨床における一般入試的な医療面接、診察、検査などの基礎知識の成熟を図り、実際に患者さんの対応を行い、臨床の一連の流れに触れ、臨床力を高める。																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 頸肩腕痛について① 医療面接・診察・治療</td> <td>第16週目 顎関節の障害について</td> </tr> <tr> <td>第2週目 頸肩腕痛について② 医療面接・診察・治療</td> <td>第17週目 頭部の神経障害①</td> </tr> <tr> <td>第3週目 肩の障害について① 医療面接・診察・治療</td> <td>第18週目 頭部の神経障害②</td> </tr> <tr> <td>第4週目 肩の障害について② 医療面接・診察・治療</td> <td>第19週目 上肢痛の診察・症例・施術①</td> </tr> <tr> <td>第5週目 肘の障害について① 医療面接・診察・治療</td> <td>第20週目 上肢痛の診察・症例・施術②</td> </tr> <tr> <td>第6週目 肘の障害について② 医療面接・診察・治療</td> <td>第21週目 上肢痛の診察・症例・施術③</td> </tr> <tr> <td>第7週目 手部の障害について① 医療面接・診察・治療</td> <td>第22週目 腰下肢痛の診察・症例・施術①</td> </tr> <tr> <td>第8週目 手部の障害について② 医療面接・診察・治療</td> <td>第23週目 腰下肢痛の診察・症例・施術②</td> </tr> <tr> <td>第9週目 腰部の障害について① 医療面接・診察・治療</td> <td>第24週目 腰下肢痛の診察・症例・施術③</td> </tr> <tr> <td>第10週目 腰部の障害について② 医療面接・診察・治療</td> <td>第25週目 膝周囲痛の診察・症例・施術①</td> </tr> <tr> <td>第11週目 膝の障害について① 医療面接・診察・治療</td> <td>第26週目 膝周囲痛の診察・症例・施術②</td> </tr> <tr> <td>第12週目 膝の障害について② 医療面接・診察・治療</td> <td>第27週目 膝周囲痛の診察・症例・施術③</td> </tr> <tr> <td>第13週目 診察の到達度試験</td> <td>第28週目 診察の到達度試験</td> </tr> <tr> <td>第14週目 診察の到達度試験</td> <td>第29週目 診察の到達度試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 前期診察のまとめ</td> <td>第30週目 診察のまとめ</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習室で授業を行う。 ・毎回小グループ(3~4人)を形成し、相互協力のもと臨床実習を行う。 										第1週目 頸肩腕痛について① 医療面接・診察・治療	第16週目 顎関節の障害について	第2週目 頸肩腕痛について② 医療面接・診察・治療	第17週目 頭部の神経障害①	第3週目 肩の障害について① 医療面接・診察・治療	第18週目 頭部の神経障害②	第4週目 肩の障害について② 医療面接・診察・治療	第19週目 上肢痛の診察・症例・施術①	第5週目 肘の障害について① 医療面接・診察・治療	第20週目 上肢痛の診察・症例・施術②	第6週目 肘の障害について② 医療面接・診察・治療	第21週目 上肢痛の診察・症例・施術③	第7週目 手部の障害について① 医療面接・診察・治療	第22週目 腰下肢痛の診察・症例・施術①	第8週目 手部の障害について② 医療面接・診察・治療	第23週目 腰下肢痛の診察・症例・施術②	第9週目 腰部の障害について① 医療面接・診察・治療	第24週目 腰下肢痛の診察・症例・施術③	第10週目 腰部の障害について② 医療面接・診察・治療	第25週目 膝周囲痛の診察・症例・施術①	第11週目 膝の障害について① 医療面接・診察・治療	第26週目 膝周囲痛の診察・症例・施術②	第12週目 膝の障害について② 医療面接・診察・治療	第27週目 膝周囲痛の診察・症例・施術③	第13週目 診察の到達度試験	第28週目 診察の到達度試験	第14週目 診察の到達度試験	第29週目 診察の到達度試験	第15週目 前期診察のまとめ	第30週目 診察のまとめ
第1週目 頸肩腕痛について① 医療面接・診察・治療	第16週目 顎関節の障害について																																							
第2週目 頸肩腕痛について② 医療面接・診察・治療	第17週目 頭部の神経障害①																																							
第3週目 肩の障害について① 医療面接・診察・治療	第18週目 頭部の神経障害②																																							
第4週目 肩の障害について② 医療面接・診察・治療	第19週目 上肢痛の診察・症例・施術①																																							
第5週目 肘の障害について① 医療面接・診察・治療	第20週目 上肢痛の診察・症例・施術②																																							
第6週目 肘の障害について② 医療面接・診察・治療	第21週目 上肢痛の診察・症例・施術③																																							
第7週目 手部の障害について① 医療面接・診察・治療	第22週目 腰下肢痛の診察・症例・施術①																																							
第8週目 手部の障害について② 医療面接・診察・治療	第23週目 腰下肢痛の診察・症例・施術②																																							
第9週目 腰部の障害について① 医療面接・診察・治療	第24週目 腰下肢痛の診察・症例・施術③																																							
第10週目 腰部の障害について② 医療面接・診察・治療	第25週目 膝周囲痛の診察・症例・施術①																																							
第11週目 膝の障害について① 医療面接・診察・治療	第26週目 膝周囲痛の診察・症例・施術②																																							
第12週目 膝の障害について② 医療面接・診察・治療	第27週目 膝周囲痛の診察・症例・施術③																																							
第13週目 診察の到達度試験	第28週目 診察の到達度試験																																							
第14週目 診察の到達度試験	第29週目 診察の到達度試験																																							
第15週目 前期診察のまとめ	第30週目 診察のまとめ																																							
教科書・参考書等	配布プリント及び、配布テキスト																																							
成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席点や授業での平常点、前期、後期で臨床実習医療面接総合評価試験、検査法を用いての診察・判定を行い、総合評価とする。 2. 前期評価と後期評価が合計120点以上の者を合格とする。 																																							
実践的教育に関する経歴等	鍼灸整骨院の勤務歴あり。																																							

授業科目名	臨床実習Ⅳ			授業形態	講義	教員	善積 紗英子		No.	50																														
科目区分	専門分野	単位	1	時間	45	期間	通年(30回)	対象学年	3年生																															
授業概要	総合的に一連の診察(受付対応～患者さんを送り出すまで)を学び、臨床現場に出た際すぐに、ある程度対応できる能力を身につける。 個別の到達目標については、別紙臨床実習記録簿に記載。																																							
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 患者様が疑問に思ったことに対し誠意をもった説明ができる。 鍼灸臨床における一連の流れを行えるようにする。 不適応疾患を見逃さない。 																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 臨床実習の説明</td> <td>第16週目 婦人科疾患における問診と説明・同意①</td> </tr> <tr> <td>第2週目 患者様への対応</td> <td>第17週目 婦人科疾患における問診と説明・同意②</td> </tr> <tr> <td>第3週目 説明と同意</td> <td>第18週目 婦人科疾患に対する治療①</td> </tr> <tr> <td>第4週目 頭痛の鑑別と徒手検査法</td> <td>第19週目 婦人科疾患に対する治療②</td> </tr> <tr> <td>第5週目 頭痛に対する治療①</td> <td>第20週目 呼吸器疾患における問診と説明・同意</td> </tr> <tr> <td>第6週目 頭痛に対する治療②</td> <td>第21週目 呼吸器疾患に対する治療①</td> </tr> <tr> <td>第7週目 美容鍼における患者様への説明と同意</td> <td>第22週目 呼吸器疾患に対する治療②</td> </tr> <tr> <td>第8週目 美容鍼効果における患者様との共有</td> <td>第23週目 冷え症における問診と説明・同意</td> </tr> <tr> <td>第9週目 内出血への対応と説明</td> <td>第24週目 冷え症に対する治療①</td> </tr> <tr> <td>第10週目 美容に対する治療①</td> <td>第25週目 冷え症に対する治療②</td> </tr> <tr> <td>第11週目 美容に対する治療②</td> <td>第26週目 複数症状の患者様に対する治療①</td> </tr> <tr> <td>第12週目 前期総合診療①</td> <td>第27週目 複数症状の患者様に対する治療②</td> </tr> <tr> <td>第13週目 前期総合診療②</td> <td>第28週目 複数症状の患者様に対する治療③</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期臨床実習評価①</td> <td>第29週目 後期臨床実習評価①</td> </tr> <tr> <td>第15週目 前期臨床実習評価②</td> <td>第30週目 後期臨床実習評価②</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>場所: 臨床実習室 各時間に白衣に着替え集合すること。 実習: 各班にて行動すること(班編成については、臨床実習記録簿に記載)。 各終了後、臨床実習記録簿を提出すること。 各班毎にカルテに必要事項を記載し、当日内に提出すること。</p>										第1週目 臨床実習の説明	第16週目 婦人科疾患における問診と説明・同意①	第2週目 患者様への対応	第17週目 婦人科疾患における問診と説明・同意②	第3週目 説明と同意	第18週目 婦人科疾患に対する治療①	第4週目 頭痛の鑑別と徒手検査法	第19週目 婦人科疾患に対する治療②	第5週目 頭痛に対する治療①	第20週目 呼吸器疾患における問診と説明・同意	第6週目 頭痛に対する治療②	第21週目 呼吸器疾患に対する治療①	第7週目 美容鍼における患者様への説明と同意	第22週目 呼吸器疾患に対する治療②	第8週目 美容鍼効果における患者様との共有	第23週目 冷え症における問診と説明・同意	第9週目 内出血への対応と説明	第24週目 冷え症に対する治療①	第10週目 美容に対する治療①	第25週目 冷え症に対する治療②	第11週目 美容に対する治療②	第26週目 複数症状の患者様に対する治療①	第12週目 前期総合診療①	第27週目 複数症状の患者様に対する治療②	第13週目 前期総合診療②	第28週目 複数症状の患者様に対する治療③	第14週目 前期臨床実習評価①	第29週目 後期臨床実習評価①	第15週目 前期臨床実習評価②	第30週目 後期臨床実習評価②
第1週目 臨床実習の説明	第16週目 婦人科疾患における問診と説明・同意①																																							
第2週目 患者様への対応	第17週目 婦人科疾患における問診と説明・同意②																																							
第3週目 説明と同意	第18週目 婦人科疾患に対する治療①																																							
第4週目 頭痛の鑑別と徒手検査法	第19週目 婦人科疾患に対する治療②																																							
第5週目 頭痛に対する治療①	第20週目 呼吸器疾患における問診と説明・同意																																							
第6週目 頭痛に対する治療②	第21週目 呼吸器疾患に対する治療①																																							
第7週目 美容鍼における患者様への説明と同意	第22週目 呼吸器疾患に対する治療②																																							
第8週目 美容鍼効果における患者様との共有	第23週目 冷え症における問診と説明・同意																																							
第9週目 内出血への対応と説明	第24週目 冷え症に対する治療①																																							
第10週目 美容に対する治療①	第25週目 冷え症に対する治療②																																							
第11週目 美容に対する治療②	第26週目 複数症状の患者様に対する治療①																																							
第12週目 前期総合診療①	第27週目 複数症状の患者様に対する治療②																																							
第13週目 前期総合診療②	第28週目 複数症状の患者様に対する治療③																																							
第14週目 前期臨床実習評価①	第29週目 後期臨床実習評価①																																							
第15週目 前期臨床実習評価②	第30週目 後期臨床実習評価②																																							
教科書・参考書等	資料を配布する。																																							
成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) 出席状況 臨床実習では出席状況を重要視する。 遅刻、早退は3点の減点、欠席は5点の減点とし、実習評価から減点となる。 2) 臨床実習記録簿の提出状況 3) カルテの提出状況及び評価試験 記録簿とカルテは当日中に提出とする。未提出の場合は実習評価から3点の減点とする。 																																							
実践的教育に関する経歴等	鍼灸接骨院の勤務歴あり。																																							

授業科目名	総合医学演習 I			授業形態	講義	教員	善積 紗英子		No.	51																														
科目区分	専門分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	3年生																															
授業概要	取穴位置と解剖学的特徴を合わせて学習し、経穴の知識を高める。																																							
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・取穴位置を答えることができる。 ・取穴位置の筋肉・支配領域の神経を答えることができる。 ・体幹部経穴の横並びがスムーズに答えられる。 																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 所属経脈と骨度法</td> <td>第16週目 人体取穴①</td> </tr> <tr> <td>第2週目 要穴の取穴部位</td> <td>第17週目 人体取穴②</td> </tr> <tr> <td>第3週目 前腕部～手部の経穴と筋①</td> <td>第18週目 人体取穴③</td> </tr> <tr> <td>第4週目 前腕部～手部の経穴と筋②</td> <td>第19週目 人体取穴④</td> </tr> <tr> <td>第5週目 上腕部の経穴と筋</td> <td>第20週目 人体取穴⑤</td> </tr> <tr> <td>第6週目 上肢の取穴</td> <td>第21週目 頭顔面部の経穴と筋</td> </tr> <tr> <td>第7週目 下腿部の経穴と筋①</td> <td>第22週目 頸部経穴と筋</td> </tr> <tr> <td>第8週目 下腿部の経穴と筋②</td> <td>第23週目 経穴と皮神経</td> </tr> <tr> <td>第9週目 大腿部の経穴と筋</td> <td>第24週目 経穴と血管</td> </tr> <tr> <td>第10週目 下肢の取穴</td> <td>第25週目 問題演習①</td> </tr> <tr> <td>第11週目 体幹部経穴の横並び</td> <td>第26週目 問題演習②</td> </tr> <tr> <td>第12週目 体幹部経穴の筋</td> <td>第27週目 問題演習③</td> </tr> <tr> <td>第13週目 奇経八脈と奇穴</td> <td>第28週目 問題演習④</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期期末試験</td> <td>第29週目 後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 前期期末試験解説</td> <td>第30週目 後期期末試験解説</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>主に資料を配布し、授業を行う。 国家試験科目に該当するため、配付資料と教科書をどちらも熟読し、各授業ごとに必ず復習すること。 欠席により授業の配付資料を受け取れなかった場合、次の授業日の授業開始前の朝、職員室にて担当教員に請求すること。</p>										第1週目 所属経脈と骨度法	第16週目 人体取穴①	第2週目 要穴の取穴部位	第17週目 人体取穴②	第3週目 前腕部～手部の経穴と筋①	第18週目 人体取穴③	第4週目 前腕部～手部の経穴と筋②	第19週目 人体取穴④	第5週目 上腕部の経穴と筋	第20週目 人体取穴⑤	第6週目 上肢の取穴	第21週目 頭顔面部の経穴と筋	第7週目 下腿部の経穴と筋①	第22週目 頸部経穴と筋	第8週目 下腿部の経穴と筋②	第23週目 経穴と皮神経	第9週目 大腿部の経穴と筋	第24週目 経穴と血管	第10週目 下肢の取穴	第25週目 問題演習①	第11週目 体幹部経穴の横並び	第26週目 問題演習②	第12週目 体幹部経穴の筋	第27週目 問題演習③	第13週目 奇経八脈と奇穴	第28週目 問題演習④	第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験	第15週目 前期期末試験解説	第30週目 後期期末試験解説
第1週目 所属経脈と骨度法	第16週目 人体取穴①																																							
第2週目 要穴の取穴部位	第17週目 人体取穴②																																							
第3週目 前腕部～手部の経穴と筋①	第18週目 人体取穴③																																							
第4週目 前腕部～手部の経穴と筋②	第19週目 人体取穴④																																							
第5週目 上腕部の経穴と筋	第20週目 人体取穴⑤																																							
第6週目 上肢の取穴	第21週目 頭顔面部の経穴と筋																																							
第7週目 下腿部の経穴と筋①	第22週目 頸部経穴と筋																																							
第8週目 下腿部の経穴と筋②	第23週目 経穴と皮神経																																							
第9週目 大腿部の経穴と筋	第24週目 経穴と血管																																							
第10週目 下肢の取穴	第25週目 問題演習①																																							
第11週目 体幹部経穴の横並び	第26週目 問題演習②																																							
第12週目 体幹部経穴の筋	第27週目 問題演習③																																							
第13週目 奇経八脈と奇穴	第28週目 問題演習④																																							
第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験																																							
第15週目 前期期末試験解説	第30週目 後期期末試験解説																																							
教科書・参考書等	東洋療法学校協会「新版 経絡経穴概論」																																							
成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1)各学期で実施する期末試験の得点 2)小テストの得点 小テストは60%以上を合格とし、60%以下の場合は小テストの再試験を受け、合格すること。 各期末試験までに合格しない場合は小テスト1回分につき1点の減点とする。 3)課題の提出状況 各期末試験までに課題が未提出の場合は1つにつき1点の減点とする。 上記項目から総合的に評価し、通年成績が120点以上になった場合のみ単位を認定する。 																																							
実践的教育に関する経歴等	接骨院の勤務歴有り。																																							

授業科目名	総合医学演習Ⅱ			授業形態	講義	教員	南洞 大有		No.	52																														
科目区分	専門分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	3年生																															
授業概要	リハビリテーション医学と運動学の復習を行い、臨床に役立つ知識を高める。																																							
授業の到達目標	(1)リハビリテーション医学の知識を高める。 (2)運動学の知識を高める。																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 リハビリテーションと医療・障害・評価</td> <td>第19週目 骨関節疾患のリハビリテーション①</td> </tr> <tr> <td>第2週目 医学的リハビリテーション</td> <td>第20週目 骨関節疾患のリハビリテーション②</td> </tr> <tr> <td>第3週目 脳卒中のリハビリテーション①</td> <td>第21週目 骨関節疾患のリハビリテーション③</td> </tr> <tr> <td>第4週目 脳卒中のリハビリテーション②</td> <td>第19週目 骨関節疾患のリハビリテーション④</td> </tr> <tr> <td>第5週目 脊髄損傷のリハビリテーション①</td> <td>第20週目 肩甲帯と肩の構造と運動</td> </tr> <tr> <td>第6週目 脊髄損傷のリハビリテーション②</td> <td>第21週目 肘と前腕の構造と運動</td> </tr> <tr> <td>第7週目 切断のリハビリテーション</td> <td>第22週目 手と手指の構造と運動</td> </tr> <tr> <td>第8週目 小児のリハビリテーション</td> <td>第23週目 骨盤と股関節の構造と運動</td> </tr> <tr> <td>第9週目 関節リウマチのリハビリテーション</td> <td>第24週目 膝関節の構造と運動</td> </tr> <tr> <td>第10週目 パーキンソン病、心疾患のリハビリテーション</td> <td>第25週目 足の構造と運動</td> </tr> <tr> <td>第11週目 呼吸器疾患のリハビリテーション</td> <td>第26週目 関節運動とテコ、姿勢、運動</td> </tr> <tr> <td>第12週目 末梢神経障害のリハビリテーション</td> <td>第27週目 歩行</td> </tr> <tr> <td>第13週目 期末試験の模擬試験</td> <td>第28週目 期末試験の模擬試験</td> </tr> <tr> <td>第14週目 期末試験</td> <td>第29週目 期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 期末試験の解説</td> <td>第30週目 期末試験の解説</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について) 教科書を中心に授業を行う。</p>										第1週目 リハビリテーションと医療・障害・評価	第19週目 骨関節疾患のリハビリテーション①	第2週目 医学的リハビリテーション	第20週目 骨関節疾患のリハビリテーション②	第3週目 脳卒中のリハビリテーション①	第21週目 骨関節疾患のリハビリテーション③	第4週目 脳卒中のリハビリテーション②	第19週目 骨関節疾患のリハビリテーション④	第5週目 脊髄損傷のリハビリテーション①	第20週目 肩甲帯と肩の構造と運動	第6週目 脊髄損傷のリハビリテーション②	第21週目 肘と前腕の構造と運動	第7週目 切断のリハビリテーション	第22週目 手と手指の構造と運動	第8週目 小児のリハビリテーション	第23週目 骨盤と股関節の構造と運動	第9週目 関節リウマチのリハビリテーション	第24週目 膝関節の構造と運動	第10週目 パーキンソン病、心疾患のリハビリテーション	第25週目 足の構造と運動	第11週目 呼吸器疾患のリハビリテーション	第26週目 関節運動とテコ、姿勢、運動	第12週目 末梢神経障害のリハビリテーション	第27週目 歩行	第13週目 期末試験の模擬試験	第28週目 期末試験の模擬試験	第14週目 期末試験	第29週目 期末試験	第15週目 期末試験の解説	第30週目 期末試験の解説
第1週目 リハビリテーションと医療・障害・評価	第19週目 骨関節疾患のリハビリテーション①																																							
第2週目 医学的リハビリテーション	第20週目 骨関節疾患のリハビリテーション②																																							
第3週目 脳卒中のリハビリテーション①	第21週目 骨関節疾患のリハビリテーション③																																							
第4週目 脳卒中のリハビリテーション②	第19週目 骨関節疾患のリハビリテーション④																																							
第5週目 脊髄損傷のリハビリテーション①	第20週目 肩甲帯と肩の構造と運動																																							
第6週目 脊髄損傷のリハビリテーション②	第21週目 肘と前腕の構造と運動																																							
第7週目 切断のリハビリテーション	第22週目 手と手指の構造と運動																																							
第8週目 小児のリハビリテーション	第23週目 骨盤と股関節の構造と運動																																							
第9週目 関節リウマチのリハビリテーション	第24週目 膝関節の構造と運動																																							
第10週目 パーキンソン病、心疾患のリハビリテーション	第25週目 足の構造と運動																																							
第11週目 呼吸器疾患のリハビリテーション	第26週目 関節運動とテコ、姿勢、運動																																							
第12週目 末梢神経障害のリハビリテーション	第27週目 歩行																																							
第13週目 期末試験の模擬試験	第28週目 期末試験の模擬試験																																							
第14週目 期末試験	第29週目 期末試験																																							
第15週目 期末試験の解説	第30週目 期末試験の解説																																							
教科書・参考書等	教科書:医歯薬出版「リハビリテーション医学」																																							
成績評価の方法	期末試験の通年成績が120点以上を合格とする。																																							
実践的教育に関する経歴等	鍼灸整骨院の勤務歴あり。鍼灸整骨院の開業歴あり。																																							

授業科目名	総合医学演習Ⅲ			授業形態	講義	教員	村田 幸一		No.	53																														
科目区分	専門分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	3年生																															
授業概要	軟部組織の損傷に対する適切なアプローチを学ぶ。																																							
授業の到達目標	各運動器疾患の考察と関連する筋肉に対するアプローチ方を学ぶ。																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 軟部組織(背部、腰部)・脊柱の診察</td> <td>第16週目 急性腰痛のアプローチ②</td> </tr> <tr> <td>第2週目 頸・肩軟部組織 肩甲間部の軟部組織の障害について</td> <td>第17週目 慢性腰痛のアプローチ</td> </tr> <tr> <td>第3週目 頭部の観察と圧痛点について</td> <td>第18週目 腰椎の可動域のつけ方 頭部の観察について</td> </tr> <tr> <td>第4週目 肩甲骨の可動域のつけ方について 上肢の可動域の変化について</td> <td>第19週目 大腰筋と腰椎の位置 長内転筋の触診</td> </tr> <tr> <td>第5週目 腰痛と正しい姿勢、女性ホルモン</td> <td>第20週目 五十肩で障害される筋肉について</td> </tr> <tr> <td>第6週目 めまいについて</td> <td>第21週目 頭蓋骨と 脊髄液の関係について</td> </tr> <tr> <td>第7週目 大腰筋、腹直筋、背腰部の軟部組織診断</td> <td>第22週目 頸・肩のトリガーポイントの考察について</td> </tr> <tr> <td>第8週目 腹部の圧痛と下肢の関係について 腹部と腰部と膝の関係について</td> <td>第23週目 身体の軟部組織の調整①</td> </tr> <tr> <td>第9週目 腹直筋・側腹筋・内転筋の関係について</td> <td>第24週目 身体の軟部組織の調整②</td> </tr> <tr> <td>第10週目 疲労による倦怠感を取り除く方法</td> <td>第25週目 身体の軟部組織の調整③</td> </tr> <tr> <td>第11週目 胃・腸の調整と軟部組織の診方</td> <td>第26週目 身体の軟部組織の調整④</td> </tr> <tr> <td>第12週目 寝違いの治療 軟部組織の診方</td> <td>第27週目 医療系DVD</td> </tr> <tr> <td>第13週目 前期末試験の範囲説明小テスト</td> <td>第28週目 身体の全身調整</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期末試験</td> <td>第29週目 身体の全身調整</td> </tr> <tr> <td>第15週目 急性腰痛のアプローチ①</td> <td>第30週目 後期末試験</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>学習方法 (1)原則的に2人組で実技をする。また、授業毎にペアを交代すること。 (2)白衣で行う。白衣を忘れた場合は前期と後期の期末試験から5点減点する。 (3)バスタオルとフェースタオル、日本でぬぐい※、筆記用具は必ず持参すること。 (4)私語は禁止。 ※日本手ぬぐいが無い場合はフェースタオルで良い。</p>										第1週目 軟部組織(背部、腰部)・脊柱の診察	第16週目 急性腰痛のアプローチ②	第2週目 頸・肩軟部組織 肩甲間部の軟部組織の障害について	第17週目 慢性腰痛のアプローチ	第3週目 頭部の観察と圧痛点について	第18週目 腰椎の可動域のつけ方 頭部の観察について	第4週目 肩甲骨の可動域のつけ方について 上肢の可動域の変化について	第19週目 大腰筋と腰椎の位置 長内転筋の触診	第5週目 腰痛と正しい姿勢、女性ホルモン	第20週目 五十肩で障害される筋肉について	第6週目 めまいについて	第21週目 頭蓋骨と 脊髄液の関係について	第7週目 大腰筋、腹直筋、背腰部の軟部組織診断	第22週目 頸・肩のトリガーポイントの考察について	第8週目 腹部の圧痛と下肢の関係について 腹部と腰部と膝の関係について	第23週目 身体の軟部組織の調整①	第9週目 腹直筋・側腹筋・内転筋の関係について	第24週目 身体の軟部組織の調整②	第10週目 疲労による倦怠感を取り除く方法	第25週目 身体の軟部組織の調整③	第11週目 胃・腸の調整と軟部組織の診方	第26週目 身体の軟部組織の調整④	第12週目 寝違いの治療 軟部組織の診方	第27週目 医療系DVD	第13週目 前期末試験の範囲説明小テスト	第28週目 身体の全身調整	第14週目 前期末試験	第29週目 身体の全身調整	第15週目 急性腰痛のアプローチ①	第30週目 後期末試験
第1週目 軟部組織(背部、腰部)・脊柱の診察	第16週目 急性腰痛のアプローチ②																																							
第2週目 頸・肩軟部組織 肩甲間部の軟部組織の障害について	第17週目 慢性腰痛のアプローチ																																							
第3週目 頭部の観察と圧痛点について	第18週目 腰椎の可動域のつけ方 頭部の観察について																																							
第4週目 肩甲骨の可動域のつけ方について 上肢の可動域の変化について	第19週目 大腰筋と腰椎の位置 長内転筋の触診																																							
第5週目 腰痛と正しい姿勢、女性ホルモン	第20週目 五十肩で障害される筋肉について																																							
第6週目 めまいについて	第21週目 頭蓋骨と 脊髄液の関係について																																							
第7週目 大腰筋、腹直筋、背腰部の軟部組織診断	第22週目 頸・肩のトリガーポイントの考察について																																							
第8週目 腹部の圧痛と下肢の関係について 腹部と腰部と膝の関係について	第23週目 身体の軟部組織の調整①																																							
第9週目 腹直筋・側腹筋・内転筋の関係について	第24週目 身体の軟部組織の調整②																																							
第10週目 疲労による倦怠感を取り除く方法	第25週目 身体の軟部組織の調整③																																							
第11週目 胃・腸の調整と軟部組織の診方	第26週目 身体の軟部組織の調整④																																							
第12週目 寝違いの治療 軟部組織の診方	第27週目 医療系DVD																																							
第13週目 前期末試験の範囲説明小テスト	第28週目 身体の全身調整																																							
第14週目 前期末試験	第29週目 身体の全身調整																																							
第15週目 急性腰痛のアプローチ①	第30週目 後期末試験																																							
教科書・参考書等	・プリント																																							
成績評価の方法	(1)前期と後期の期末試験の得点 (2)授業態度、出欠状況および提出課題の内容 上記項目から総合的に評価し、通年成績が120点以上となった場合のみ単位を認定する。																																							
実践的教育に関する経歴等	鍼灸整骨院の勤務歴あり。																																							

授業科目名	総合医学演Ⅳ			授業形態	講義	教員	南洞 大宥		No.	54
科目区分	専門分野	単位	1	時間	30	期間	半期(15回)	対象学年	3年生	
授業概要	鍼灸師が一般的に使用する、各種の徒手検査法の復習を行う。									
授業の到達目標	臨床の場で疾患に対して鍼灸適応か不適応か、判断して鍼灸治療に繋がる知識を身につける。									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1週目 運動機能・感覚・反射検査 第2週目 運動失調、髄膜刺激症状の検査 第3週目 脳神経の検査 第4週目 MMT、ROM検査 第5週目 頸部、胸部の徒手検査法① 第6週目 頸部、胸部の徒手検査法② 第7週目 肩部の検査法 第8週目 肘部・手関節の検査法① 第9週目 肘部・手関節の検査法② 第10週目 腰仙部、股関節の検査法① 第11週目 腰仙部、股関節の検査法② 第12週目 膝関節の検査法 第13週目 下腿の検査法 第14週目 足部の検査法 第15週目 試験 <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>随時資料を配布する。</p>									
教科書・参考書等	『東洋医学臨床論 <鍼灸編>』『臨床医学総論』を使用する。									
成績評価の方法	期末試験の成績が60点以上を合格とする。									
実践的教育に関する経歴等	鍼灸整骨院の勤務歴あり。鍼灸整骨院の開業歴あり。									

授業科目名	総合医学演習V			授業形態	講義	教員	樋口 勝広		No.	55
科目区分	専門分野	単位	1	時間	30	期間	半期(15回)	対象学年	3年生	
授業概要	鍼灸治療に関する理論的知識・衛生についての知識を深める。									
授業の到達目標	鍼灸治療の効果・身体への影響についての知識を深め、衛生対策を学び、身につける。									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 鍼灸概要・基礎知識の復習</p> <p>第2週目 刺鍼の方式と術式・特殊鍼法について</p> <p>第3週目 灸術と種類について</p> <p>第4週目 鍼灸治効理論について①</p> <p>第5週目 鍼灸治効理論について②</p> <p>第6週目 鍼灸治効理論について③</p> <p>第7週目 鍼灸治効機序①</p> <p>第8週目 鍼灸治効機序②</p> <p>第9週目 リスク管理について①</p> <p>第10週目 リスク管理について②</p> <p>第11週目 衛生について①</p> <p>第12週目 衛生について①</p> <p>第13週目 衛生について①</p> <p>第14週目 後期期末試験</p> <p>第15週目 総括復習</p> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>1)各授業で小テストやレポート提出を課す場合がある。その場合小テストの結果や、レポートの作成具合は成績に加味されるので留意すること。</p>									
教科書・参考書等	<p>教科書以外の参考書として、以下の教科書を参考に復習することが望ましい。</p> <p>医歯薬出版株式会社『衛生学・公衆衛生学』</p> <p>医道の日本社『はりきゅう理論』</p>									
成績評価の方法	<p>1)各学期で実施する期末試験の得点</p> <p>2)出席状況及び授業態度</p> <p>3)小テストやレポート提出を課した場合、その結果・作成具合</p> <p>上記項目から総合的に評価し、半期成績が60点以上になった場合のみ単位を認定する。</p>									
実践的教育に関する経歴等	鍼灸整骨院の勤務歴あり。									

授業科目名	総合医学演習Ⅵ			授業形態	講義	教員	南洞 大有		No.	56
科目区分	専門分野	単位	1	時間	30	期間	半期(15回)	対象学年	3年生	
授業概要	鍼灸師が一般的に臨床の場で遭遇する疾患に対する、医療面接、徒手検査法、取穴、鍼灸治療の一連の流れを学習する。									
	臨床の場で疾患に医療面接および徒手検査法を使用して鍼灸適応か不適応か判断して、適応疾患には取穴から鍼灸治療に繋げる事を学習する。									
授業内容 ・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 全体の概略説明</p> <p>第2週目 医療面接の内容説明</p> <p>第3週目 徒手検査法の内容説明</p> <p>第4週目 経穴取穴の内容説明</p> <p>第5週目 鍼灸治療の内容説明</p> <p>第6週目 頸部疾患について</p> <p>第7週目 肩部疾患について</p> <p>第8週目 肘部疾患について</p> <p>第9週目 手関節疾患について</p> <p>第10週目 腰部疾患について</p> <p>第11週目 膝部疾患について</p> <p>第12週目 足部疾患について</p> <p>第13週目 総合練習</p> <p>第14週目 試験</p> <p>第15週目 試験</p> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>(1)本講義は実技のため、開始時間までに実習室2に白衣着用で集合する事。</p> <p>(2)生徒同士で鍼灸を行うので、患者役に白衣内はタンクトップと短パンを着用の事。</p>									
教科書・ 参考書等										
成績評価 の方法	医療面接(25点)、徒手検査法(25点)、取穴(25点)、鍼灸実技(25点)の4項目を評価して、総合得点が60点以上を合格とする。									
実践的教育に 関する経歴等	鍼灸整骨院の勤務歴あり。鍼灸整骨院の開業歴あり。									

授業科目名	総合医学演習Ⅶ			授業形態	講義	教員	南洞 大有		No.	57
科目区分	専門分野	単位	1	時間	30	期間	半期(15回)	対象学年	3年生	
授業概要	古代中国から日本中世～近代までの、はり師・きゅう師の歴史を学習する。近代時代からは日本の医業類似行為などを学習する。									
授業の到達目標	日本の伝統医療のはり師、きゅう師の歴史を学習し、医業類似行為であるはり師、きゅう師の今後あるべき姿を考察し、学習を深める。									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 中医学理論体系形成の時代(古代～3世紀)①</p> <p>第2週目 中医学理論体系形成の時代(古代～3世紀)②</p> <p>第3週目 中医学の発展継承の時代(4世紀～19世紀)①</p> <p>第4週目 中医学の発展継承の時代(4世紀～19世紀)②</p> <p>第5週目 日本の医療の歴史(古代～江戸時代まで)</p> <p>第6週目 医制成立前と成立後の時代背景(明治時代)</p> <p>第7週目 医制制度成立後の時代背景(大正時代)</p> <p>第8週目 医制制度成立後の時代背景(第二次世界大戦前)</p> <p>第9週目 医制制度成立後の時代背景(第二次世界大戦後)</p> <p>第10週目 GHQの鍼灸の予防医学に対する期待</p> <p>第11週目 昭和からの医業類似行為の変遷</p> <p>第12週目 近年の医業類似行為の変遷</p> <p>第13週目 医業類似行為の歴史のまとめ</p> <p>第14週目 期末試験</p> <p>第15週目 期末試験の解説</p> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>主にプリントを配布する。</p> <p>はり師きゅう師の歴史をよく理解する。</p>									
教科書・参考書等	『医療概論』『新版 東洋医学概論』を使用する。									
成績評価の方法	期末試験の成績が60点以上を合格とする。									
実践的教育に関する経歴等	鍼灸整骨院の勤務歴あり。鍼灸整骨院の開業歴あり。									